

令和元年度 身近な教育委員会・教育懇談会

教育委員会室から外に出て、学校等で開催することで区民の皆さんに教育委員会の周知を図るため、平成29年5月から開始し、9回目となる「身近な教育委員会」及び、教育委員や事務局幹部職員が区民や保護者と教育問題について話し合う「教育懇談会」を下記のとおり実施いたしました。

記

日時：令和2年2月4日（火）18時30分～20時30分

場所：教育支援センター研修室

概要：第1部 身近な教育委員会

○講演テーマ

「今後の中学校部活動のあり方について ～持続可能な形をめざして～」

板橋区教育委員会委員 長沼 豊

第2部 教育懇談会

○グループ熟議

『持続可能な部活動』に向け、＜何から＞変えますか？

①家庭 ②地域 ③学校 ④教育委員会

4つの視点から考えてみましょう

※第1部の内容を受け、グループごとに4つの視点を基に熟議を行いました。

※各班の意見のまとめ、教育長の講評の要旨は、次ページ以降のとおりです。

参加者：72名

（内訳）保護者等 50名

教育長・教育委員 5名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員 長沼豊委員

小・中学校代表 2名

関根弘富士見台小学校長 山口敦上板橋第三中学校長

教育委員会事務局関係者 15名

令和元年度 教育懇談会 各班の意見まとめ

◎ 各班の意見まとめ

※ ①保護者、②地域、③学校、④教育委員会 の4つの視点から、ふせんにキーワードとなるような意見をまとめていただきました。

【A班】

- ①部活動時間の短縮は教師が大変だからではなく、子どもにとってメリットがあるから
- ②活動を地域にもっと開いてほしい。学校活動の中で一番「踏み込みにくい世界」

【B班】

- ①保護者ボランティア ②地域人材活用 ③実態発信&意識改革
- ④ガイドライン！&スーパーコーチ！

【C班】

- ①部活の意義を理解したうえで期待
- ②あらゆる人材（OB、企業、学生）を活用する。指導補助員の名称をサポートーに
- ④教員の大変さをもっとアピール。人と予算を用意する

【D班】

- ①まず、部活動の実態を知る。部活動をオプションと言わないで！
- ③若手教員に指導を任せられるのか

【E班】

- ①意識改革。教育課程外 ②iCSだけでは難しい ③拠点校での指導の推進
- ④指導者の確保

【F班】

- ①家庭では、無理強いしない。期待しすぎない ②地域では、人材の発掘

【G班】

- ①保護者の意識を今の時代に合わせて変えていく
- ④部活動指導員の人材バンクを区で作る（大学生・部活のOB・退職した教員等）

【H班】

- ①家庭では、期待しすぎず、押し付けず子どもの自主性を
- ②地域では、積極参加を歓迎／小学生保護者の囲い込み
- ③学校では、ICTを生かして調整を円滑に／子どもの任意入部を徹底
- ④教育委員会では、合同部活（複数校）と有償コーディネーターの設置

【I班】

- ①費用の負担 ②さまざまな人材の発掘 ③時間短縮も含めた効率的な運営
- ④人材バンクの仕組み作り

◎ 教育長の講評

- ※ 各班の意見のまとめを受け、教育長から参加者に発言を促しつつ、講評を行いました。
- ※ 要約は以下のとおりです。

(中川教育長)

- ・各班で大変熱い熟議ができたと思います。
- ・持続可能な部活動に向け、何から変えるのかについて、4つの視点から話し合っていました。

①保護者について

- ・「意識改革」、「部活動の実態を知る」、「期待しすぎない」といったキーワードが出ました。
- ・「費用の負担」について

⇒(I班保護者)

協力員の方、例えば地域の方への謝礼を保護者が負担してはどうかという提案です。

- ・「意識改革」について

⇒(E班保護者)

部活動は教育課程の一環にあると思い込んでいるので、そうした意識を変えていくと良いのではないかと思います。

- ・部活動の加入実態について

⇒(山口校長)

上板橋第三中学校では、加入率9割前後です。

- ・保護者に対し、部活動がオプションであることを誰が説明するのでしょうか

⇒(山口校長)

教育委員会からお知らせしつつ、地域と学校で浸透していくような形が良いと思います。

②地域について

- ・「活動を地域にもっと開いてほしい」、「地域人材活用」といったキーワードが出ました。
- ・「地域人材活用について」

⇒(B班保護者)

無償ではなく、自治体からお金が出る有償という形であれば集まるのではないかと思います。

③学校について

- ・「情報発信」について

⇒(A班保護者)

部活動の情報について、PTAの活動を始めてから、初めて具体的に分かりました。学校から保護者に具体的な協力の声掛けがあれば、動く大人はいると思いますし、それにより地域にも広がっていくと思います。ぜひ、きっかけを学校につくってほしいと思います。

- ・「意識改革」について

⇒（B班保護者）

部活動を頑張りたいという先生が、本業である学習指導や生徒指導よりも力を入れ過ぎてしまうこともあるので、顧問の役割を明確化し、顧問のあり方について意識してもらうと良いのではないかと思います。

- ・顧問の状況について

⇒（山口校長）

上板橋第三中学校では、先生全員が顧問になっているが、今よりもさらに部活動の数を増やしてほしいというようなお話も入ってきます。

- ・学校の規模は縮小しているのに、部活動の数は減らせず、先生が掛け持ちしているような学校もあります。部活動の数を減らすことは必要ですが、理解を得られるように丁寧な説明が必要だと思います。
- ・長時間ひとつの種目をやり続け、オーバーワークになりがちな日本のスポーツのあり方自体も変える必要があるのではないかと思います。
- ・例えば、月・水・金と習い事をしていると毎日練習があるような部活動には入りづらいということがあります。部活動そのもののあり方も見直す必要があるのではないかと思います。

④教育委員会について

- ・先生に代わる外部指導員として、「人材バンク」がキーワードとして出ました。東京都が4月から設置する予定なので、それになぞらえた形での対応も考えられると思います。

⑤おわりに

（長沼委員）

- ・すばらしい熟議で盛り上がり、課題をたくさん出すことができました。
- ・多くのヒントとともに、教育委員としての宿題をいただいたと思うので、これから一緒に考えていきたいと思っています。

（関根校長）

- ・部活動を一番大切にする子どももいれば、そうでない子どももいるので、部活動は完全任意制にして、子どもたち本人の自主性に任せてもらうと良いのではないかと思います。

（中川教育長）

- ・部活動を考えるファーストステップとして、大変有意義な話し合いになったと思います。
- ・部活動を見直すうえで、部活動の教育的意義は共有しつつも、
 - 「勝利至上主義」や「根性論」への疑問
 - 練習日数や時間の短縮等、練習方法や内容の、量より質への転換を図るべきとの提案
 - 顧問への外部人材の導入
 等々、たくさんのヒントをいただいたことに感謝いたします。
- ・何よりも子どもたちのためにと考えつつも、先生方の厳しい現状もあるということを、ぜひ、周りの方にもお伝えいただければと思います。
- ・本日は遅い時間に、ご多用な中お集まりいただき、ありがとうございました。